1 自己評価書

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価		
教育目標	ふるさとを愛し 心豊かによく考え 心身ともにたくましい清満っ子を育てる						
基本方針	児童一人一人の可能性を引き出す教育実践に努め、家庭・地域と密に連携した「地域ぐるみの教育」により、心身ともに健康な児童の育成を目指す。						
本年度重点目標	○「明るく、心豊かな子」を育む教育の推進(知) ○「礼儀正しく、よく考える子」を育む教育の推進(徳) ○「心身ともに健康で、たくましい子」を育む教育の推進(体) ○「地域ぐるみによる清満っ子の育成」の推進						
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施		後期のみ	
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B	
			ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A A		A
			一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C B A		
	③	家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C D C		C
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A	
	(成果と課題) ○計画に沿った研究授業が行われ、授業改善への意識が高まった。授業導入のためあての立て方や意見交流のさせ方等を工夫した授業への取組が増えた。 ●効果的な自主学習ができるようになるための教員の働き掛け ●EILS等の効果的な活用 ●家庭で読書する習慣を身に付けさせるための啓発 (改善策等) ・授業の振り返りを基にした自主学習が行えるように指導し、成果が次時以降の授業に生かされるような授業と家庭学習の連動を図る。 ・授業や単元の終末にEILSを活用して学習内容の定着具合を把握したり、個々の状況を分析したりする。 ・児童が自分のペースで補充学習が行えるように、タブレット教材を活用する。 ・昨年度後半から取り組んでいる「親子読書」について、「よっしゃウィーク(家庭学習強調週間)」の取組や通信、参観日等の機会を通じての呼び掛けにより活性化を図る。						
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
	生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C A A	A
②		児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A	
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A C A		B
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B C B		
③		関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A B	B	
④		自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的に行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B B		B
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B B		
(成果と課題) ○課題に対して、情報を適切に共有し組織的に対応できている。必要に応じて関係機関と協力したり、相談できる場について保護者に情報提供したりできた。 ●児童の問題行動やトラブル等に対しての初期対応に更なる注意が必要 ●家庭環境や保護者の考え方も多様化し、多面的・多角的な視点での対応が必要 (改善策等) ・児童の良いところを積極的に称賛したり、学級や全校で、互いのよさを見つけ合えるような機会を設定する。 ・児童会活動として「ありがとうの木」の取組を始める。 ・日頃から家庭との連携を密にし、保護者の思いや願いを正確に把握する。 ・児童や保護者の情報を定期的に交換する場を増やし、情報共有を常に図っておく。 ・問題が起こったときは組織で素早く対応できるように、生徒指導に関する校内の体制の見直しを行う。 ・問題の未然防止と早期発見、解決のための教職員研修の充実を図る。							

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C B	B
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	A	A
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A	
<p>(成果と課題)</p> <p>○温かい雰囲気の中で、適切な協力体制の下、気持ち良く働くことのできる環境が整えられている。</p> <p>●超過勤務が徐々に増えている。</p> <p>●校外での役を受け、業務が多い教職員が存在する。</p>						
<p>(改善策等)</p> <p>・スクールサポートスタッフとの連携の取り方を改善し、業務改善につなげる。</p> <p>・1学期を振り返り、個人的に改善できる部分もあることを確認したため、各自が先を見通し、計画的に業務を進めるように改善する。</p> <p>・校内の校務分掌等は適切に割り振られ、互いに協力し合いながら進められているが、校外で役割を受けている教職員もあり、その部分にも配慮した校内での役割分担も考えなければならない。</p>						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、 熟議等の結果を基に 、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	
			②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	
・保護者アンケート ・地域アンケート	A A					
③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談できやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
・保護者アンケート			A			
・地域アンケート			A			
<p>(成果と課題)</p> <p>○地域や保護者の協力体制が有難い。学校のことや教職員の働き方のことまで考えた意見を積極的に出していただき、地域・家庭・学校で共に児童を育てる土壌ができています。</p> <p>●職員室が不在になる時間が時々できてしまい、来客・電話対応の点で課題がある。</p>						
<p>(改善策等)</p> <p>・職員室が不在になることに関しては避けられないところもあるため、玄関等の施錠を確実にすることで対応する。</p> <p>・これまでも、急ぎや地域の方の訪問については、1階で授業をしている教員に直接声を掛けていただけだったので、特に問題ないと思われる。</p> <p>・子機がないため電話対応についてはどうにもならないが、ミライムについては教室でも定期的に確認し、対応できるようにしておく。</p>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満